

ジーエスワン

ジャパン

GS1 Japan News

一般財団法人 流通システム開発センター

GS1標準で、安全・安心、効率的なサプライチェーンを推進します

第26号

2024年5月



Discover GS1 2024 開催! P.2

医療 DX を支える GS1 標準 P.3

GS1 グローバル・フォーラムレポート P.4

GS1 標準による DX、オムニチャネル環境の業務革新 2023 ... P.5

リテールテック JAPAN 2024 に出展 P.6

理事会・評議員会を開催..... P.7

Discover GS1 2024 開催!

ー「使えるグローバル標準“GS1”」をさまざまなビジネスにー

GS1 標準バーコードが世界で初めて小売業の店頭でスキャンされてから 50 年という記念イヤーの今年、GS1 Japan は「Discover GS1 2024」を 3 月 4 日～5 日に開催した。

イベント名の “Discover” には、

- ① GS1 標準を「発見」してほしい、
- ② GS1 標準で新たなソリューションを「発見」してほしい、という二つの意味が込められている。

GS1 標準全体を知ってほしい!

GS1 Japan ではこれまで、さまざまな講座の開催や、委員会・研究会で GS1 標準についての説明を行っているが、GS1 標準の全体像がいまひとつつかみ切れないという声も多かった。

そのため、本イベントは、GTIN (JAN コード) はもとより、GTIN と属性情報 (賞味期限やロット番号等) を組み合わせた利用や GTIN 以外のさまざまな GS1 識別コード (Identify)、これらの情報を表現するバーコードや EPC/RFID などのデータキャリア (Capture)、さらにはそれらをサプライチェーン全体

で共有 (Share) するための標準を紹介し、それを活用 (Use) するための GS1 標準の全体像を知っていただくという目的で開催した。

さまざまな参加者を想定したプログラム

本イベントのプログラムは表の通りである。

DAY1 は開会あいさつ、プレナリーセッション「現代のビジネスに求められる “GS1 標準” とは」に続き、GS1 標準のデータキャリア (バーコードや RFID) で GTIN + 属性情報を表現するメリットやその活用が進んでいる業界 (ヘルスケア、グロスリー) の実導入を紹介するセミナーを中心に開催した。

DAY2 では、GTIN 以外の識別コードの活用や、ウェブと GS1 標準の融合「Digital Link」、モノの移動に関する情報をサプライチェーン全体で共有・交換するための標準「EPCIS」などについて紹介した。

さらに、本イベントの最後のセッションでは二日間で紹介したさまざまな GS1 標準を活用した未来型の



当財団前田常務理事による開会あいさつ

物流可視化実証実験を紹介している。

一方、GTIN の活用をこれからスタートさせるといった事業者や、一度基本ルールをおさらいしたいという参加者向けに GTIN の設定方法を 1 から学ぶ講座も開催した。

また、技術者向けのセッション「ALL OF GS1 SYNTAX」では、GS1 標準データキャリアで GS1 識別コード + 属性情報を表現するための三つの表現方法 (GS1 element string syntax、GS1 Digital Link URI syntax、EPC シンタックス + α) について、詳細な解説を行うなど、さまざまなステークホルダーに向けたセッションを実施した。

9 割超が「また参加したい」と回答

イベント全体の参加者は 385 名、セッション聴講数は延べ 2629 と非常に多くの方に参加いただいた。

イベント後に実施した参加者アンケートでは 94% 以上の方が「また参加したい」、89% 以上の方が「次回開催時には知人に紹介する」と回答してくださっている。

このイベントを機に、新たな GS1 標準の活用が生まれてくることを期待している。

当財団は引き続き GS1 標準の紹介や導入のサポートなどを積極的に行っていく。

(グロスリー業界グループ 分部)

Discover GS1 2024 全体プログラム

DAY 1		DAY 2	
No.01	開会挨拶	No.09	GTINだけじゃない! 様々な対象に付けられる「GS1識別コード」とは?
No.02	現代のビジネスに求められる「GS1標準」とは	No.10	更なる商品情報・サービス提供の充実へ GS1識別コードとウェブが繋がる「GS1 Digital Link」
No.03	JANコードからGTIN+商品情報への転換	No.11	サプライチェーンDXの要は可視化にあり サプライチェーン可視化のためのGS1標準「EPCIS」
No.04	活用しよう! GS1標準バーコードと電子タグ(EPC/RFID) ~機械化、自動化で業務効率向上~	No.12	基本ルールを徹底解説! 商品識別コード「GTIN」の設定原則をしっかり学ぶ30分
No.05	賞味期限やロット管理の改革! 食品原材料や集合包装でのGS1二次元シンボル活用	No.13	具体例を交えて深掘り! 「GTIN」の設定方法をさらに学ぶ30分
No.06	在庫管理から消費者PR、高度な販売戦略まで! POSレジで扱う商品におけるGS1二次元シンボルの活用	No.14	GS1標準データキャリアの構造を知ろう 技術者向け「ALL OF GS1 SYNTAX」
No.07	トレーサビリティ? 物流効率化? 消費者エンゲージメント? グロスリー分野におけるGS1二次元シンボル活用	No.15	活用が広がる電子タグ (EPC/RFID) 業界を超えた活用事例と標準の重要性
No.08	医療安全に貢献する「Scan」を解説! ヘルスケア分野でのGS1標準利活用動向	No.16	ついに2024年がやってきた! 大手加工食品メーカーが実践: 物流可視化実証実験
		No.17	閉会挨拶

表 プログラム

医療 DX を支える GS1 標準

ー GS1 ヘルスケアジャパン協議会 オープンセミナー 2024 講演から ー

2022 年の骨太の方針で政府が取り上げた医療 DX は、デジタル技術を活用して医療の効率化と質の向上を目指す取り組みであるが、病院内の物流情報の可視化にもその期待がかかる。

患者に対して用いられる物品は医薬品や医療機器など多岐にわたるが、その種類が最も多いとされているのは注射器やカテーテルなどの医療材料であり、サイズや容量などの違いも多く、各病院はその管理に日々追われている。

そのような中で、医療材料に表示されている GS1 バーコードを利用して医療 DX を進めようとする病院も少しずつではあるが増えている。GS1 ヘルスケアジャパン協議会が 2024 年 3 月 11 日に開催した、ヘルスケア分野における GS1 標準活用状況の共有や導入における課題などについて議論する「オープンセミナー 2024」においても、医療材料管理の DX 化に関する 2 題の講演が行われた。

電子カルテと GS1 標準

(国研) 国立国際医療研究センターの美代賢吾氏は、医療 DX の実現においての一つの解は電子カルテの標準化であるという。患者の診療情報を管理するための電子カルテは、医療機関におけるデータ蓄積の共通基盤でありながら、現在は医療機関ごとに、あるいはサービスを提供するベンダーごとにカスタマイズされバラバラの運用がなされている。蓄積される情報の入出力を媒介する標準コードやその交換手順を共通化させることが必要だと主張する。物品の情報を媒介する標準コードとしての役割を担うものこそが、



参加者は年々増加しており、今回の申込者数は 1200 名を超えた

各医療材料に表示されている GS1 バーコードである。

医療材料の検品や各病棟への引き渡しの確認、手術での使用記録時など、さまざまな場面で医療材料の GS1 バーコードをスキャンすることで、いつ、どこで、何が、誰に、どのように使われたかを可視化することができ、その情報が電子カルテに連携されることで、患者ごとの診療情報とひも付いたデータ蓄積が可能になる。

コスト可視化による経営改善

物品情報の可視化によって病院経営の改善を実現させたのは札幌白石記念病院の田村豊氏だ。2019 年に行われた 8% から 10% への消費税引き上げにより、同院では医療製品の納入価格が保険償還価格を上回るケースが相次ぎ赤字が発生した。その中で、院内で使用される医療材料コストの可視化を行うことで収支のバランスを分析できるよう独自のシステムを開発し、医療材料の GS1 バーコードを読み取って得られる情

報を、保険償還業務に使用する医事コードと連携させることで、各手術、各診療科、各医師において使用された医療材料と収益およびコストの見える化を行った。さらに同院では、この収支データを院内に共有することでどの医師の、どの手術のコストが割高になっているかを認識させ、材料の効率的な使用を促すことにも成功した。結果として、2020 年度からの 3 年間で、医療材料の使用による赤字は解消され、今では差益で病院経営に貢献する黒字要因にまで変化した。

進化を遂げる GS1 標準

GS1 ヘルスケアジャパン協議会は、2024 年で発足から 15 周年を迎える。当初、物流の効率化で活用されていた GS1 標準は、今では経営の効率化にまで用いられるようになった。運用の仕方一つで医療 DX に貢献できる GS1 標準の医療機関での活用について、引き続きの調査と報告に努めたい。

(ヘルスケア業界グループ 田中)

GS1 グローバル・フォーラムレポート

— 信頼できる情報の提供で、信頼される組織になる —

GS1 は、2024 年 2 月 19 日 ~ 22 日、ベルギーのブリュッセルでグローバル・フォーラムを開催した。本会議は GS1 最大のイベントで、オープニング、ヘルスケア、リテール、クロージングの四つのプレナリー、50 以上の GS1 標準やシステムなどのテーマ別セッションの他、各地域会議で構成される。

ハイブリッド形式で実施され、GS1 本部、110 の GS1 加盟組織(以下 MO)、関係する企業や団体から合わせて 2512 名が参加し、その内訳は、会場参加が 836 名、オンラインが 1676 名であった。登壇したスピーカーは 155 名、うち 103 名は GS1 本部や MO のスタッフ、52 名は GS1 標準を利用したり標準化に関わる企業や団体からの参加であった。GS1 Japan からは 6 名が現地で出席した。

新会長、CEO のメッセージは

初日のオープニングプレナリーで GS1 の Renaud de Barbuat CEO は、「2023 年は EAN/UPC バーコードが規格化されて 50 周年を祝った。このバーコードが初めて小売業の店舗でスキャンされたのが 1974 年 6 月。よって今年も 50 周年を記念した活動が続けるとともに、これからの 50 年も考え、サステナブルな社会に貢献するインフラを提供していく」と述べた。具体的には、二次元シンボルの活用分野拡大、商品や場所の基本情報を参照できるレジストリーの整備、の二つが重点項目となる。

続いて今年 1 月に GS1 の会長に就任した IGA(Independent Grocers Alliance) の Mark Batenic 会長が紹介された。同社は 1926 年、家



写真 1 Batenic GS1 新会長(左)と de Barbuat CEO

族経営の小売業を支援する目的で設立された。現在、約 30 カ国の計 7000 の店舗に対し、調達・仕入れ、PB 開発、EC 導入サポートなどを行っている。Batenic 新会長は、IGA も GS1 も加盟組織で構成される連合体であるという点が似ており、消費者、企業、業界団体、政府、ソリューションパートナーなどから信頼される組織でなければならない、と述べた。また、その鍵を握る GS1 標準とサービスとして de Barbuat CEO 同様、二次元シンボルとレジストリーの活用に触れた。

二次元シンボルの可能性

2 日目のリテールプレナリーのテーマは「From Cotton to Click」。GS1 スウェーデンの CEO が登壇し、白い T シャツに表示された GS1 Digital Link 方式の二次元シンボルを使ったデモを通じて、原材料(Cotton)調達から購入(Click)までの情報提供の在り方を示した。現在、企業にとって、各種規制への対応や ESG 対策の必要性は最重要課題の一つとなっている。また消費者は、商品が、どんな原材料から、誰によって、どこで、どのように作られ、手元まで運ばれたか、といった情報を要求するようになっていく。製造から販売まで、サプライチェーン全体を通して途切れること

のない正確な情報が求められているのである。

この T シャツプロジェクトに関わったパートナーであるスリランカの MAS ホールディングス(アパレル製造業兼ブランドのデジタル化を支援するコングロマリット)、スウェーデンの AxFoundation(持続可能な社会を目指して活動する非営利団体)、ソリューションを提供した Avery Dennison に加え、整備された情報を迅速に消費者に対し提供する使命がある Google も登壇し、それぞれの立場から、T シャツに表示された、たった一つの二次元シンボルがこの T シャツの価値を高め、企業や消費者へもたらす体験やメリットが大きいかを語った。



写真 2 デモの様子と二次元シンボル

E コマースが生活に欠かせなくなった今、商品の情報がなければその商品は存在しないに等しい。一方、その商品に関する情報が多くても正確でなければ消費者の信頼は得られない。情報があふれる時代だからこそ、その商品に関わる複数の企業が連携し、原材料調達から製造、物流に至るまで、正確な情報をワンストップで消費者に示すことが信頼につながる。

ぜひ、写真の QR コードを読み取って GS1 Digital Link のパワーを体験してほしい。

(広報・ブランディング推進室 島崎)

GS1 標準による DX、オムニチャネル環境の業務革新 2023

ー リテールファクトリー、AI によるマスター管理の事例も紹介 ー

2024 年 2 月 9 日、GS1 Japan パートナー会員制度の公開セミナー「GS1 標準による DX、オムニチャネル環境の業務革新 2023」ー EC, D2C の動向と GS1 標準の今後ーをベガサビル（東京・港）で行った。なお開催には 11 団体の協力をいただいている（下表参照）。

表 協力団体一覧（順不同）

- ・モバイルコンピューティング推進コンソーシアム (MCPC)
- ・(一社) モバイル・コンテンツ・フォーラム (MCF)
- ・(一社) 全国スーパーマーケット協会
- ・日本小売業協会
- ・(一社) 日本チェーンドラッグストア協会
- ・日本ダイレクトマーケティング学会
- ・(一社) 日本自動認識システム協会
- ・日本オムニチャネル協会
- ・(一社) 日本イーコマース学会
- ・(一社) PL 研究学会
- ・(一社) 日本百貨店協会

オンライングローサリーの新たな取り組み、AEON Green Beans

最初の講演は「生鮮宅配「グリーンビーンズ」についてー株式会社イオンネクストの取り組みー」と題して、同事業の立ち上げから携わるイオンネクスト(株) IT 部長の駒場光徳氏が登壇した。

グリーンビーンズは、2023 年 7 月より物流のハブ機能を担う基幹物流施設（以下、CFC）を起点に千葉・東京エリアで事業を開始した。



セミナー会場の様子

英オカド社のサプライチェーンのソリューションを活用し、CFC でのロボットピッキング導入や配送ドライバーの負担軽減のために積み込み作業の削減など

を行っている。このソリューションは、英マークスアンドスパンサー社、米クローガー社、仏カジノ社、スウェーデン ICA 社、韓国ロッテ社などの有力な食品小売業で世界的に導入されている。

駒場氏は、「今後、物流のオンデマンド化が進む中で省人化も進み、機械化される。機械主流の物流には精度の高い商品マスターと EDI の整備が必須となる。世界一精度の高い GS1 Japan の商品マスターで、国全体の物流の最適化につなげたい」と締めくくった。

EC における GTIN の重要性

2 講目は、当財団市原特別研究員が「世界のネット販売で利用拡大する GS1 標準」と題して EC での GTIN の重要性とその動向について解説した。

国際的な EC では、商品の識別コードとして GS1 の GTIN が利用されており、GS1 は GTIN と主要な情報を Verified by GS1 などで提供している。EC は、情報と商品の一致が重要であることを強調した。

商品マスター管理における生成 AI の活用例

最後は「業界共通商品マスター J-MORA ー生成 AI で激変する商品マスターの最前線ー」と題し、今



セミナー講師

村商事(株)代表取締役社長の今村修一郎氏がデモを交えて講演した。

「J-MORA」は、流通業の業務効率化・均質化のため、企業間の垣根を超えた標準化を標榜し（一社）リテール AI 研究会が立ち上げた仕組みで、同氏はテクノロジーアドバイザーとして参画している。

現在、J-MORA には 300 万件のデータが登録されており、AI や RPA を利用して情報登録プロセスの自動化、データ精度の向上が進められている。

今村氏は商品マスターに着目した理由に、テクノロジーが進歩することで 10 年前と比べデータストレージの保管コストが低減し、活用しやすくなった点を挙げた。今後は成分情報やサイズ、物理的情報が重要となるため、メーカーへの商品情報提供の見返りがある仕組みをすることで、さらなるテクノロジーの進化と費用軽減が図られるとの見通しを示した。

GS1 標準は、EC 事業者にとって業務効率化に欠かせないものである。GS1 Japan としては、今後も国内の企業に向けてさまざまな流通システムの環境変化について紹介しながら、引き続き GS1 標準の普及に努めていく所存である。

（グローサリー業界グループ 市原）

リテールテック JAPAN 2024 に出展

— 来場者数は順調に回復 10 月開催の大阪展にも期待 —

2024 年 3 月 12 日から 3 月 15 日にかけて、「リテールテック JAPAN2024」（日本経済新聞社主催）が、東京ビッグサイトで開催された。当財団は同展示会のスタート当初より特別協力団体として継続的に支援し、併せて出展も行っている。

出展エリア内は、展示内容に応じて「GS1 Japan ゾーン」と「流通 BMS ゾーン」に分かれている。また、それぞれのゾーンには GS1 Japan パートナー会員(GJP 会員)のブースを設けており、今年は「GS1 Japan ゾーン」に 1 社、「流通 BMS ゾーン」に 7 社が出展された。

GS1 Japan のさまざまな事業を紹介

「GS1 Japan ゾーン」では、GS1 標準の GTIN (JAN コード)、データベースサービス、RFID、ヘルスケアや各協議会など、GS1 Japan のさまざまな事業の取り組みをまとめたパネルの展示や動画の上映、各種資料の配布とともに、各事業の担当者が立ち会い、来場者に GS1 標準についての説明を行った。

また、今回は二種類のデモを実施した。前回に引き続き実施した RFID の読み取りデモでは、商品やパレットに見立てたミニチュアに EPC をエンコードした RFID タグ (EPC/RFID タグ) を付けて、一つ一つ読み分けが可能であることを実演することで、標準化されたコードのメリットを示した。

また、リテールテック JAPAN には初登場の GS1 二次元シンボル読み取りデモでは、GTIN + 賞味期限やロット番号などがエンコードされた GS1 二次元シンボルが表示されている商品を POS レジに見立て

たシステムで読み取ることにより、さまざまな業務効率化に活用できることを紹介した。例えば、ダイナミックプライシングの実践や賞味期限切れ商品の販売防止、複数シンボル (JAN + QR コードなど) の集約などである。このコーナーも前年以上に関心を寄せる来場者が多く、デモを見ながら、興味深く説明に聞き入る姿が多く見られた。

「流通 BMS ゾーン」では、流通 BMS 関連の製品およびサービスを提供している IT ベンダーブースにて、資料配布や担当者による説明を実施した。

出展エリア内に設けた「セミナーエリア」では、ブース内出展会員の商品・サービスの紹介および GS1 Japan の事業内容の説明などを行った(写真)。出展各社のセミナープログラムは下表の通りである。

悪天候でも前回は上回る来場者数

今回は新型コロナウイルスの影響がほぼ無くなった状況での開催だったこともあり、日経メッセ全体の来場者は 20 万 8832 人に上った。開催初日は開場前から雨が降り、午後は悪天候と予想されていたため、客足に影響が出ることが懸念されたが、リテールテックについては晴天だった前年初日より 2000 人増加し、さらに残り 3 日間



写真 ブース内セミナーの様子

は天候に恵まれたこともあり、最終的に前年比 9700 人増の 8 万 6954 人が来場し、順調に回復していることがうかがえた。

年 2 回の開催となったリテールテックの次回は、10 月の「リテールテック大阪 2024」である。年々、規模が拡大し、認知度も上がっており、前年以上に盛況となることが期待される。

(GJP 会員制度事務局)

GS1 Japan セミナー	
北陸コンピュータ・サービス株式会社	小売チェーン必見! 事例で分かる、受発注業務の「効率化」を成功させる方法とは?
「運用・維持負担の軽減」「個人化の解消」に成功した方法を、X 社の事例を交えてご紹介いたします。	
流通 BMS セミナー	
株式会社システムベース	流通 BMS・EDI 導入を活かした、業務効率化を実現
自社設備を活かした「クラウドサービス」で流通 BMS 対応を低コストで実現。さらに流通 BMS 連携ソリューションで業務効率化をご提案します。	
株式会社データ・アプリケーション	流通 BMS での電帳法対応システムと PSTN マイグレーションの最新情報
流通 BMS をインタフェースとした電帳法対応システムと PSTN マイグレーションの最新情報をご紹介します。	
株式会社 HBA	今からでも遅くない! EDI で DX を推進!
小売企業様の DX 化において、EDI や流通 BMS の活用は不可欠です。手軽に導入できる HBA のクラウドサービスをご紹介します。	
株式会社ビット・エイ	流通 BMS 対応ソフトの法改正対応とすべてのご利用ユーザー様を最新 ver. に導くまで
流通 BMS ソフト「e-NetBMS」の二大法改正対応に、小売グループのソフトハウスだから成せる支援サービスをご紹介します。	
キヤノン IT ソリューションズ株式会社	流通 BMS 対応「EDI-Master Cloud」のご紹介
クラウド上で流通 BMS に対応し、さらに OpenAPI によるシームレスなクラウド連携可能な「EDI-Master Cloud」をご紹介します。	
株式会社インターコム	受発注データをノーコードで自動処理 ジョブフローで簡単 EDI サーバー構築
EDI 受発注業務におけるデータの後処理などのフローをノーコードで構築できる仕掛けをご紹介します。	
富士通 Japan 株式会社	改正電帳法、デジタルインボイス対応、お取引先様とのコミュニケーション強化の最新事例のご紹介
改正電帳法、デジタルインボイスの対応に加え、お取引先様とのコミュニケーション強化の最新事例を富士通 Japan のソリューションとともにご紹介いたします。	

表 出展各社のセミナーテーマと概要

理事会・評議員会を開催

－ 2024 年度の事業計画・予算を審議 －

2024 年 3 月、当財団は 2024 年度の事業計画および予算を審議するため、2023 年度 第 2 回通常理事会および 2023 年度 第 2 回評議員会を開催した。

2023 年度 第 2 回通常理事会

2024 年 3 月 7 日に明治記念館（東京・港）にて開催した。

迎会長が議長となり議事が行われた。また、議事録署名人は議長の他に服部監事と荒井監事が務めた。

第 1 号議題「2024 年度事業計画について（案）」

第 2 号議題「2024 年度収支予算について（案）」

第 3 号議題「登録事業積立金の取り崩しについて（案）」

第 1 号～第 3 号議題は相互に関連があるため一括審議したい旨の提案があり了承された。

杉谷専務理事から各議題の内容について説明があり、議長が 3 議題について諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認した。

第 4 号議題「独占禁止法遵守指針の策定について」

独占禁止法遵守指針の策定について、杉谷専務理事から報告を行った。

第 5 号議題「理事の職務執行状況について」

常勤理事である迎会長、杉谷専務理事、前田常務理事、西山理事、森理事が、昨年 6 月開催の 2023 年度 第 1 回通常理事会終了後から現在までの職務執行状況について書面で報告を行った。

第 6 号議題「2023 年度 第 2 回評議員会の開催について（案）」

評議員会の日時および場所、議題および議題の概要について承認した。

議長は、以上をもって閉会を宣した。

2023 年度 第 2 回評議員会

2024 年 3 月 11 日に明治記念館にて開催した。

細野評議員が議長となり議事が行われた。また、議事録署名人は議長の他に浅野評議員と廣根評議員が務

めた。

第 1 号議題「2024 年度事業計画について（案）」

第 2 号議題「2024 年度収支予算について（案）」

両議題は相互に関連があるため一括審議したい旨の提案があり了承された。

杉谷専務理事から各議題の内容について説明があり、議長が両議題について諮ったところ、全員異議なく原案のとおり承認した。

第 3 号議題「独占禁止法遵守指針の策定について」

独占禁止法遵守指針の策定について、杉谷専務理事から報告を行った。

議長は、以上をもって閉会を宣した。

今回承認された 2024 年度事業計画および予算は、当財団ウェブサイトに掲載されている。

また、次回の理事会・評議員会は、2023 年度決算を審議するため 6 月に開催予定である。

（総務部 山下）



理事会開催風景



評議員会開催風景



GS1 Japan
パートナー会員

新規会員募集中！



流通業における情報システム化に関わる各種キーワード（GS1 標準、EPC、EDI など）を中心として、最新のシステム技術、システム化事例、業界動向、国際動向などの情報を共有し、流通業界全体のシステム化、標準化を推進することを目的とします。

※ 見学会につきましては、2024年度から再開する方向で進めております。

2023年度イベント実績

GS1 Japan
パートナー会員制度の
詳細はウェブで



開催日	イベント名	主なテーマ・議題
2023 /5/16	第1回特別セミナー	・流通と消費の今を読むー食品と百貨店を中心に
2023 /6/20	第2回特別セミナー	・広がる二次元シンボルの活用：標準動向と導入事例を中心に ・経済産業省事業「まいづる百貨店実証実験」の概要
2023 /8/1	第3回特別セミナー	・製・配・販連携協議会における物流効率化に向けた検討状況について
2023 /10/25	第4回特別セミナー	・海をめぐる問題とその解決策としてのトレーサビリティ ・EPCIS のご紹介 /EPCIS の可視化データに基づく物流業務効率化実証実験
2023 /11/21	第5回特別セミナー	・GS1 事業者コードの最新動向 ・国内外の商品情報データベースの動向と今後について ・GEPIR 終了について ～新サービス Verified by GS1 のご紹介～ ・商品マスタ情報の共通利用に向けて
2024 /2/9	<公開セミナー> GS1 標準による DX、 オムニチャネル環境 の業務革新 2023	・生鮮宅配「グリーンビーンズ」についてー株式会社イオンネクストの取り組みー ・世界のネット販売で利用拡大する GS1 標準 ・商品マスタ情報の共通利用に向けてー J-MORA の取り組みー

